

# CASBEE® 名古屋

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 評価マニュアル (2016年改訂) ■使用評価ソフト: CASBEE\_Nagoya\_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)港第2倉庫新築工事	階数	地上3F
建設地	名古屋市港区港明一丁目1015-1、3の一部	構造	S造
用途地域	工業地域、準防火地域	平均居住人員	152 人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,920 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	竣工段階評価
竣工年	2026年1月 予定	評価の実施日	2025年12月22日
敷地面積	28549.60 m <sup>2</sup>	作成者	
建築面積	6144.73 m <sup>2</sup>	確認日	2025年12月22日
延床面積	16188.07 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.7** ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外のオンサイト手法 ④上記+オフサイト手法

0 46 92 138 (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Qのスコア = 3.0

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

音環境: 2.9, 温熱環境: 2.3, 光・視環境: 2.6, 空気質環境: 4.1

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.5

機能性: 3.5, 耐用性・信頼性: 2.9, 対応性・更新性: 4.2

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.8

生物環境: 2.0, まちなみ・景観: 4.0, 地域性・アメニティ: 2.0

**LR 環境負荷低減性** LRのスコア = 3.8

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.2

建物外皮の熱負荷: 5.0, 自然エネルギー: 3.0, 設備システム効率化: 5.0, 効率的運用: 2.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.6

水資源保護: 3.4, 非再生材料の使用削減: 3.8, 汚染物質回避: 3.3

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

地球温暖化への配慮: 4.4, 地域環境への配慮: 3.1, 周辺環境への配慮: 3.0

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
<ul style="list-style-type: none"> <li>周囲の景観に配慮した植栽計画を行った。</li> <li>大型車両が出入りするため、敷地内の交通導線の整理し一方通行とした。</li> </ul>		
<b>Q1 室内環境</b>	<b>Q2 サービス性能</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>設備機器の設置や更新が容易に行えるように、事務所の屋上部分にバックアップスペースを確保した。</li> <li>将来の用途変更の可能性等を考慮し、建物の階高・空間の形状・自由さのゆとりのある計画を行った。</li> </ul>	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>建物の周囲に適切な植生を行い、良好な緑化空間を計画した。</li> </ul>
<b>LR1 エネルギー</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>LED照明を採用し、倉庫内は熱線センサを設置し設備システムの高効率化を図った。</li> </ul>	<b>LR2 資源・マテリアル</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>節水型の器具を採用した。</li> </ul>	<b>LR3 敷地外環境</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>燃焼機器を使用しておらず、外部空間に対して大気汚染物質を全く発生させない。</li> <li>敷地周辺に植栽を計画することで、周辺環境へ配慮した。</li> </ul>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

### 重点項目スコア・結果シート

(仮称)港第2倉庫新築工事

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE\_Nagoya\_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
<b>1. 温暖化対策</b>				<b>4.0</b>
LR1	エネルギー	4.2	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	4.4	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
<b>2. 自然共生</b>				<b>1.9</b>
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.11505345	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域性のある材料の使用※1	無	0.011505345
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.057526725	
<b>3. 循環型社会</b>				<b>3.7</b>
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.9	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

### 結果

#### 1. 温暖化対策

評価点 = 4.0



#### 2. 自然共生

評価点 = 1.9



#### 3. 循環型社会

評価点 = 3.7



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1) 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2)において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。